

全国学力・学習状況調査 授業展開例【日高プラン】

授業改善プロセス編

日高管内学力向上推進会議では、子どもたちの確かな学力を育むための授業改善の参考にしていただくため、管内の優れた検証改善サイクルや授業改善の取組を取りまとめ、本資料を作成しました。校内研修等において活用し、日常の授業改善を推進してください。

【全国学力・学習状況調査を活用した検証改善サイクルの確立～授業改善のプロセス～】
常に、①子どもの視座に立ち、②調査問題の解答状況や児童生徒質問紙の回答状況を根拠に、③具体的な手立てを全ての教職員で共通理解、共通実践する。

プロセス① とらえる
誤答・無答は、子どもたちが示す「授業改善の道しるべ」と捉えましょう

- ・全国学力・学習状況調査の自校採点結果から、課題の見える問題を把握する。
- ・最も課題の見える問題を、全教職員で実際に解き、求められる基礎的・基本的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を具体的に把握する。
- ・児童生徒質問紙の状況から、子どもの意識や教師の認識との差異を把握する。

条件に応じて、自分の考えを表現できないようです。

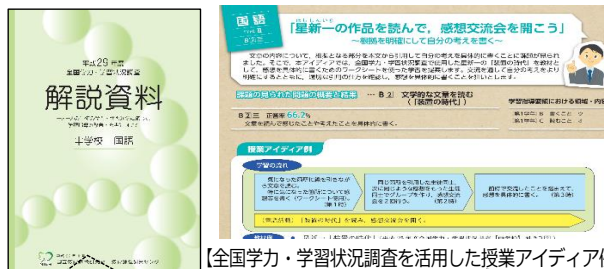
生徒質問紙でも、言語活動に関わる設問の肯定的な回答が少ないようです。



書く活動の時間が十分に確保できていなかったのかもしれない。

プロセス② そろえる
課題の見られた問題の趣旨や授業改善の方向性の共通理解を図りましょう

- ・「全国学力・学習状況調査解説資料」や「全国学力・学習状況調査を活用した授業アイデア例」を参考に、授業改善の方向性を確認する。
- ・児童生徒質問紙の内容や子どもたちの回答状況を、学校の教育活動に照らし合わせ、教育課程の見直しや授業改善に生かす。



解答類型に着目し、児童生徒が「どのように考え、つまづいたのか」を分析することで、今後の指導のヒントをつかむことができます。

調査問題で求められている力を身に付けさせる実際の授業イメージをもつことができます。

プロセス③ ころみる
自校で身に付けさせる力を重点化し、全ての教科等の授業で共通実践しましょう

- ・学校の課題や目標の共通理解、統一した授業改善の手立てを検討するための全教職員による校内研修を行う。

【基本的な学習過程の統一】
終末は必ず15分以上確保して、自分のことばで学習内容をまとめたり、学習全体を振り返ったりする活動は、全ての授業で取り組んだ方がよいと思います。

【アクティブ・ラーニングの視点】
見通しをもって主体的に取り組める課題設定やペアやグループの意見交流を共通の手立てにしたいと思います。



【教科書での取扱いの確認】
自分の考えをもつことについては、国語では、1年生の「オツベルと像」、2年生の「走れメロス」、3年生の「故郷」など、文学を読む授業で、系統的に指導ができそうです。

【カリキュラム・マネジメントの実現】
課題解決のために、いつ、どのような教育活動でどのように指導するのか、明確すべきだと思います。

【客観的な成果の検証】
学期ごとに、チャレンジテストの記述式の問題や生徒の授業アンケートを活用して、生徒の変容を見取れば、成果を確認できると思います。

